

「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)(案)」の意見募集結果について

「2100年の江戸川区(共生社会ビジョン)(案)」に関する意見募集手続きは、令和4年7月1日から7月14日までの期間で行いました。その際、10名より計14件のご意見をいただきました。お寄せいただいたご意見及び区の考え方は、以下の通りです。

1 意見募集手続きの概要

(1) 意見募集期間

令和4年7月1日から7月14日までの間

(2) 周知方法

ア 区公式ホームページに掲載

イ 令和4年7月1日号の「広報えどがわ」に掲載
経営企画部企画課窓口に関連用の印刷物を設置

(3) 意見の提出方法

ア 区公式ホームページ

イ 持込み又は郵送

(4) 提出先

経営企画部企画課企画係

2 意見募集の結果

(1) ご意見と区の考え方

	いただいたご意見	区の考え方
1	<p>江戸川区はとても住みやすい地区だと思います。ただ、住民の心配は大雨による水害です。そこで提案です。船堀地区をモデル地区として、住民による「水害学習」を行ってはいかがでしょうか。</p> <p>船堀タワーの塔上より、江戸川区全体を見る</p> <p>次に、新川の船堀棧橋(仮名)にて和船に乗船し、火の見櫓で下船する。乗船中に江戸川区の大雨対策(雨水を古川・一之</p>	<p>本区としても、区民の皆様に水害リスクを正しく把握していただき、いざという時に自ら命を守る行動をとることができるよう、平時から備えを進めていただくことが重要だと考えています。</p> <p>また地域で災害への対策を進めることは、地域コミュニティを育むことにもつながるものと考えています。</p> <p>いただいたご提案も含め、区民の皆様の生命・財産を守るための様々な方策を、</p>

	<p>江親水公園水路に集める 集めた雨水を新川にポンプアップする 新川にポンプアップした雨水を荒川にポンプアップする)について学習していただく</p> <p>火の見櫓から荒川堤防に上がり、荒川の水位と船堀地盤との差を実感していただく</p> <p>このシステムは他の自治体では行っていないモデル的なシステムである</p> <p>早めに区外の高台へ逃げることが重要だと学習していただく</p> <p>< 船主・船頭の安全運航 ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 船主は安全を徹底する 2. 船頭は安全操船を徹底する 3. 船主と船頭は、連絡・相談・話し合いを徹底する 4. 船主と船頭は運行条件を決める 5. 船頭報酬を日給制か時給制に <p>< イベント ></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. イベント開催に船頭として参加協力 2. イベントは区役所開催とする 	<p>引き続き検討していきます。</p>
2	<p>素晴らしいと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございました。</p>
3	<p>少子・高齢化が追い打ちをかけ、産業界自体が衰退すれば、江戸川区だけでは無く、日本全体の産業にも降りかかるものではないかと推察いたします。江戸川区が目指す未来は、先端技術に対する投資と、少子・高齢化の歯止めを最重要課題として取り組む事が重要と考えます。</p> <p>江戸川区が一番に取り組むことは少子高齢化の対策として、子育ての為に出生費用、保育園、幼稚園の無償化や小学校、中学校、高校での学費以外の援助、産学一体への取り組みとして、海側の広大な敷地への大学の誘致により、多くの若い方達の江戸川区への転入を進めて人口減を</p>	<p>ご指摘の通り、少子・高齢化や人口減少への対応、産業の活性化などの施策は、本区にとっても日本全体にとっても、喫緊の課題です。ご提案いただいた数々の取り組みは、今後の区政の参考にさせていただきます。</p> <p>一方で、2100年に向けた長期的なビジョンを策定するにあたっては、描く未来の姿が「絵に描いた餅」にならないよう、「区の人口は減少する」という推計を前提とした上で、起こりうる未来から目を背けずに、未来に向けて持続可能な区の姿を区民の皆様と一緒に考えてきました。今後も長期的な展望を持って、ビジョ</p>

	<p>防ぎます。</p> <p>また、江戸川区自体で商業施設への経営参加で、税収の減収を補うことが出来るかの検討、既存企業への技術面、資金面などの大幅な支援の取り組みで活性化を図り、雇用の確保に繋げる事が人口減に役立つ事と考察致します。</p>	<p>ン実現のための取り組みを進めていきます。</p>
4	<p>(小松川・平井地区から)船堀・小岩等へのやや小型の区営循環バスの運行を願っています。勿論有料です。</p> <p>もうひとつお願いがあります。都バスの発着です。現在平井から都心へのバスは「上野松坂屋」のみです。亀戸、錦糸町駅からは数多く出ています。本数は少なくとも結構ですから是非平井駅から東京駅方面への発着も考えていただけたらと思います。</p>	<p>現在本区では、駅やバス停から遠い地域におけるコミュニティ交通の導入に向けて、上一色、興宮町、及び小岩周辺をモデル地区として、実証実験を行っています。この実証実験で得られた知見ももとに、未来を見据えながら、今後の区内交通のあり方について、さらに検討を進めていきます。</p>
5	<p>80年後の区を人口3分の1という観点からとらえるのは少し飛躍が過ぎないだろうか。その理由や人口構成などがわからないと、リアリティが乏しすぎると思う。</p>	<p>本区が行った人口推計によると、区の2100年の人口は、現在の3分の2になるとされています(出典:施策策定のための人口等基礎分析)。これは、国立社会保障・人口問題研究所が行った国の将来人口推計とも同じ傾向にあります。</p>
6	<p>今から80年後に向けたなにか地道な積み重ねの定着を考えると、学校行事やイベントなどの映像記録の徹底したライブラリー化と共有。未来向けのライブラリー。</p>	<p>区に関わる行事やイベントについては、映像や写真による記録を残していません。また一部画像については、「江戸川画像文庫」というウェブサイトにおいて、オープンデータとして公開しています。今後も、区の営みを記録し継承していく取り組みを続けていきます。</p>
7	<p>交流の拠点を作っては。まずは屋外の公園のようなものでいいから、レガシイ的でありつつ未来を見据えた場所をきめて、一挙に立派なものを作るというのではなく、育てていく。そういったものを構想するなら、区がどう変わろうが、活かせるのではないだろうか。</p>	<p>現在本区では、2100年の未来を見据え、公共施設の再編・整備計画の策定を進めています。ご提案いただいたような交流の拠点となる公園や施設についても、区の施設全体のあり方を考える中で研究していきます。</p>

8	<p>「望ましくない未来」が脅迫的でないとところに好感を抱きました。「恐ろしい未来を回避する」のではなく、「よりよい未来を選び取る」ほうが、希望があつてすてきです。なにかできることから始めよう、という気持ちになります。こうした働きかけが、多くの区民に届くといいなと思いました。</p>	<p>ご意見ありがとうございました。ビジョン完成後は、多くの方に知っていただけるよう、プロモーション活動を行っていく予定です。</p>
9	<p>障害のある人、国籍の異なる人について厚めに言及している割に、性的マイノリティについては見て見ぬふりをしている感があつて残念でした。LGBTQ 当事者はもちろん、それを支持する人たちも納税者。社会的にはまだまだ「取りこぼされている」彼らにも、きちんと目を向けてほしいと思います。</p>	<p>本ビジョンの 21 ページには、目指すまちの姿として、「LGBTQ」のようなカテゴリー分けする言葉がなくなり、性別（性自認・性的指向）にかかわらず認めあい、ささえあえる社会を描きました。本区は今後も、どのような立場にある方でも安心して自分らしく暮らすことのできるまちを目指します。</p>
10	<p>地域に住む私たちもメインとサブという形で地域(町会など)に所属することを提案したいと思います。</p> <p>お祭りもただ人数が居れば済む話ではなく、櫓を組める人、太鼓を叩ける人などいろんな人が必要です。町会毎に明暗が分かれるより、それぞれの得意を活かして、協力し会える所属方法もありだと思います。</p> <p>商店街も品揃えの差によって明暗が分かれるのでなく、(資本関係に関係なく)周辺店舗に問い合わせられる仕組みも欲しいです。若い人なら、隣のお店まで足を運ぶでしょうし、足腰に難のある人なら、取り寄せやシルバー人材センターにサポートを依頼するのも良いでしょう。</p> <p>また、周辺へのサポートを容易にするため、電子化とそれらの保存や公開方法も横断的に区が整備しても良いと思います。</p>	<p>本ビジョンの 23 ページには、『いろいろな個性をもった人たちがみんなでささえあいながら、いい意味で「ごちゃまぜ」に暮らしている』まちの姿を描きました。</p> <p>ご提案いただきました町会・自治会の活動内容や加入方法、商店街の店舗間協力のあり方などについては、地域の皆様のご意見もうかがいながら、時代に即した取り組みを検討していきます。</p>
11	<p>地域共生社会に障害者アート活動を盛り込んでいただきたいです。</p>	<p>障害をお持ちの方が自分の個性を發揮し社会と関わっていくための手段とし</p>

	<p>障害者アート活動の普及は、障害者の社会参加促進(社会の一員としての役割)、障害者理解の啓発(地域共生社会づくり活動)に寄与することができます。</p>	<p>て、アートをはじめ、音楽、スポーツなどの活動は非常に有効だと考えます。一人ひとりが自分にあった活動を選ぶことができるよう、環境整備を支援していきます。</p>
12	<p>「環境とともに生きる。」にある、「いまは水害による被害を受けやすいけれど、2100年には堤防や建物がさらに強くなっているから大丈夫。」という箇所には、江戸川区が「堤防の強化」や「建物の強化」をどのように実現していくのかのビジョンを表記するべきである。単に「強くなっているから大丈夫」というだけでは、安全や安心に結び付いて行かない。治水には堤防強化のみならず、流域治水対策が必須であろうし、水害に対して建物の強化はあまりに漠然とした表記であると考えられる。</p>	<p>本ビジョンは、目指す2100年のまちの姿を描くものであり、その実現のための具体策については「2030年の江戸川区(SDGsビジョン)」をはじめとする他の計画に記載しています。</p> <p>またご指摘の通り、水害対策は堤防や建物の強化だけで成り立つものではありませんが、本ビジョンは小学校高学年以上の方に内容を理解していただけるよう平易な内容と表現を心がけており、その分、説明が単純化されていたり簡略化されていたりする箇所もあります。ご理解いただけますようお願いいたします。</p>
13	<p>(現在の)江戸川区の歳出面での内訳を見ると、福祉、子ども家庭、教育費など人に対しての行政サービスが充実しています。このことからお年寄りから幼児までの幅広い年代ご安心して過ごせる環境が提供できていると考えます。約80年という長い期間でもこの施策はとっていくべきであると思います。</p>	<p>挙げていただいた福祉、子ども家庭、教育などの分野も含め、人口や職員数が減り、財政規模が縮小していく中であって、現行の行政サービスを低下させずに持続可能な区政を行っていくための長期的な方策について、今後も検討を進めていきます。</p>
14	<p>近年、自然災害が多発している中、80年という長い期間で生活していくにあたり自然災害への対策は必須になります。水害に対しての防災施設を増やしていくと同時に、区民への防災訓練の徹底の強化が、安心して暮らせる街づくりに繋がっていくと考えます。江戸川区は多くの行事を通し他の区とは違い区民との距離が近いと思います。その強みを活かした施策が今後の街づくりに生きていくと思えます。</p>	<p>災害対策においては、行政の取り組みだけでなく、区民の皆様同士の取り組みが非常に重要になります。ご提案頂いた防災訓練の徹底をはじめ、地域における災害対策を推し進めることは、地域のつながりを強くすることにもつながるため、今後も区民の皆様力を結集しながら、地域の防災力の強化に努めていきます。</p>